



1. 目指す学校・目指す生徒

明治期に創設された本校は、常に我が国の農業教育の中心的役割を担ってきた。創立117年目の時代を築き、令和10年度の創立120周年に向けて名実ともに日本を代表する「農業の専門高校」としての充実を目指す。

校是「勤勉 勤労」

※ 校是とは、学校設立の根本精神をいう。初代校長、熊谷八十三先生が明治41年開校にあたり「勤勉 勤労」を生徒心得として定めた。

☆スクールミッション

「勤勉・勤労」を校是とし、検定・資格取得の推進、学校農業クラブ活動の活性化、地域・社会貢献活動といった教育活動を通じて、基礎学力と専門技能を身に付けた、人間性・社会性豊かで、社会に貢献し、予測困難な未来を生き抜く生徒を育成します。

☆スクールポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー

- ア) 資格取得・検定合格ができる基礎学力及び専門技能や知識を獲得する。
- イ) 将来に向けたポジティブなモチベーションを持つ。
- ウ) 他人を尊重したうえで、自らの考えを論理的かつ分かりやすく表現する力を身に付ける。
- エ) 課題を見出した上で、その課題を自ら解決する力を身に付ける。
- オ) 協働に必要なコミュニケーション力の一步である挨拶できる習慣を身に付ける。
- カ) 自分のみならず、他人や自然を敬う心を持つ。

(2) カリキュラム・ポリシー

- ア) 0時間目を活用し、学びなおしや資格取得・検定合格、キャリア教育のための講座を開講する。
- イ) 主要3教科では小・中学校の復習のための教材を活用する。
- ウ) 特別専門講師等から園芸に関するより高度な専門知識や技術を身に付けられる授業を展開する。
- エ) タブレット端末等を活用し、一人一人の能力や興味に応じた授業を展開する。

(3) アドミッション・ポリシー

本校は「勤勉勤労主義」という根本精神の下、土や植物と触れ合うことによって、園芸についての知識と技術を身に付けられる学校である。各学年1クラスで、家庭的な雰囲気の中で楽しく学ぶことができる。通信制高校の科目も学習することにより、3年間での卒業も可能である。

- 1 植物や農業に関心を持ち、意欲的に学習に取り組める生徒
- 2 毎日の学校生活に真面目に取り組み、積極的に高校生活を送ろうとする生徒
- 3 本校で学んだことを将来の進路に生かそうとする生徒
- 4 他人に対する思いやりや感謝の気持ちをもてる生徒

〈目指す生徒〉

基盤学力と専門技能を身に付けた

人間性・社会性豊かで、学び続ける力をもった生徒

不透明な時代で活躍するために「タフでしなやかな生徒」の育成

2 中期的目標と方策

東京都教育施策大綱～誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って、自ら伸び、育つ教育～（令和7年3月）、都立高校の魅力向上に向けた実行プログラム（令和7年3月）の精神を、「園芸高校定時制教育」に生かす。

(1) 学校経営

「個人商店主義」の排除、「一体的経営」を行う。

（学校は組織で教える所。全体のベクトルを合わせて「チーム学校・チーム園芸」で進める。）

- ① 「教職員全体の経営参画意識」と「学校全体での改善」による学校の力の強化
- ② 「部分最適」よりも「見える化」による「全体最適」の優先、「最適解」を意識する。
- ③ これまでの教育スタイルを見直し、デジタルを活用した新しい教育スタイル(LPX)へ転換
- ④ 成果検証の確実化・迅速化を図る。
- ⑤ 「東京で一番、全日制・定時制の仲のいい学校」、「全・定」間の見える化
- ⑥ 「学校における働き方改革推進プラン」に基づきライフ・ワーク・バランスの推進を図る。

(2) 学習指導（共通の基盤）

校是「勤勉 勤労」の体現と「力を付ける授業」

- ① 「言語活動の充実」を図る。読解力を育成し、「アウトプット（話す・書く・行動する）」も重視し、生徒の思考場面を重視した「考え抜く授業」を実践する。・（定義の理解など）教科書を読んで理解できる力・表現できる力を育成する。
- ② 「東京都オリンピック・パラリンピック教育のレガシーを活かす」
- ③ 「TOKYO ACTIVE PLAN for students（総合的な子供の体力向上方策（第4次推進計画））」に基づいて体力向上を目指し農業系高校に相応しい体力を育成する。

(3) 専門教育（多様な方向性、能力の最大化）

- ① 「技能スタンダード（資格取得と客観的評価）」と「アグリマイスター顕彰制度の活用」
- ② 「教員個々の指導力の向上」「スマート農業技術など先端技術の習得」
- ③ 専門教科と普通教科の連携による教科横断的な授業による深い学びの充実

(4) 生活指導（規範意識の醸成と生徒に寄り添う指導の充実）

- ① 「挨拶ファースト運動」と生徒自身でできる「時間管理」の方法を作る。
- ② 「3つのリスペクト運動」で互いに敬意を払い、尊敬されるよう自身を律する。この運動を通して、「体罰といじめ」のない、許さない学校環境を作る。さらに、自殺総合対策大綱に基づいた「自殺の未然防止」につなげる。
- ③ 「厳格」と「受容」、（ゼロトレランス）と（カウンセリングマインド）により早期発見と早期対応を組織的に行う。
- ④ 生徒の自己特性の理解推進と自分を客観視やメタ認知する支援の充実

- (5) キャリア教育・進路指導（産業社会で自立できる力）
- ① キャリアプランに基づく、「学校から社会・職業へ移行した後まで見通した系統的指導」
 - ② 「学校外組織と連携」（産業界、大学、ハローワーク、サポートステーション等）
 - ③ 希望する進路実現に向けた進路指導
- (6) 特別活動（豊かな人間性と社会性、母校愛・連帯感の育成）
- ① 創立117年を経て「スポーツ大会・園芸展」の2大行事で生徒の個性の伸長と育成を図る。
 - ② 「学校の名所」維持管理で「母校愛」を育む。
 - ③ 生徒会活動、委員会活動、部活動への積極的に参加し、社会性、連帯感、母校愛を育成する。
- (7) 健全な心と身体の育成
- 体力向上、食育、心身の健康に関する指導を充実させ、健全な心と身体を育成する。
- (8) 地域連携（学校・地域・海外・産業界の連携）
- ① 地域連携や商品開発による起業家教育、キャリア教育を充実させる。
 - ② 「専門」を生かした地域連携、地域との協働
- (9) 教育財産・予算（質の高い教育環境）
- ① 「校舎内外のきれい化」
 - ② 「歴史的教育財産の維持管理」

3 今年度（令和7年度）の目標と取組み（特に今年度行うべきこと）

経営計画実現のための〈基本施策〉

◇1 「授業力の向上」

お互いに授業を見合う中で授業PDCAを高める。定時制では人的リソースが限られるため、他校での授業実践や研究会等へ積極的に参加し研さんする。

◇2 「地域連携・教科連携」：社会に開かれた教育課程と教科横断的な学びの実践

定時制教育を通してよりよい社会を創る理念を実現させるため、地域社会との連携及び協働、教科横断的な学びをとおして、その実現を図る。また、成果検証のPDCAを常に行う。

◇3 「次の10年への価値創造」：「地域と世界に羽ばたく園芸高校」

— グローカル・アグリハイスクール —

本校が持つ国際性（グローバル）・地域性（ローカル）・園芸教育（アグリ・ハイスクール）を複合し「グローバル・アグリハイスクール」として一層飛躍する。

◇4 「園芸高校からの情報発信」（農業系専門学科の認知度向上）

社会へ本校の教育活動や教育内容を積極的に情報発信し、農業教育や農業の重要性を伝える。また、全教員による中学校訪問や出前授業、塾訪問を実施し、専門学科高校の認知度高める。

人間性・社会性を育成するための〈生徒指導〉

1 「挨拶ファースト運動」

挨拶の意味を理解し、自然と挨拶ができるように取り組む。

2 「3つのリスペクト運動」 生徒に敬意・尊敬・畏敬の念を育てる

- ①人をリスペクトする（人に敬意を払う）
- ②人にリスペクトされる（人に尊敬されるよう自身を律する）
- ③自然をリスペクトする（園芸の自然物に畏敬の念を払う）

(1) 学校経営

①学校経営

成果検証について

→学校行事を中心に10回以上実施

- ・スポーツ大会や園芸展をはじめ、生活指導部主催の行事と学年行事などを中心に生徒の振り返りをFormsで実施。

②「グローバル・アグリハイスクール」としての飛躍

→古布回収ボランティア2回、フリーマーケット参加1回、近隣関係機関への植栽4回、生産品無料提供2回、生産品販売40回（売上約25万円）など

- ・近隣町会主催のイベントや近隣関係機関への植栽提供、実習品提供及び販売など、ローカルとアグリ・ハイスクールの複合教育は回数や参加者を増すことができたが、国際性を取り入れた教育を実施は未実施となってしまった。

③情報発信と募集対策（農業系専門学科の認知度向上）

→HP更新65回、中学校訪問数49校、外部説明会10会場、ZOOM説明会2校、体験授業2回、夏季学校見学会1回、個別学校見学13件

- ・HP更新については前年度を下回った。一方で未実施であった中学校訪問や新規の外部説明会に参画するなど、新たな情報発信の場を築くことができ、10名の新入生を迎えることとなった。

④ライフワーク・バランスの推進

→年次有給休暇取得月1回以上67%、年間15日以上78%。

- ・6月に取得できていない。また農場部職員は管理などの関係で取得率向上につながるための課題解決が必要でもある。

(2) 学習指導

①授業力向上

→相互授業参観実施3回、全職員参観実施。外部授業参観3人5回

- ・外部授業参観や全日制の授業参観の機会を周知徹底する必要がある。

②全ての教科で「言語活動の充実」を図る。

→年間図書館貸出数403冊、未貸出者22%

- ・学年により貸出数や利用者に偏りがある。図書館と連携をした活用の強化と計画を進める改善が必要である。

③全ての教員がAL型を実践する。STEAM教育の推進、「答えのない課題」と向き合う力を身に付けさせる。

→全学年新学習指導要領の実施に伴い、各教科で実施方法などの確立は見られつつある。

- ・一方、学校評価アンケートの結果自分で疑問を見つけ、考えを表現することについての項目で、肯定的な意見8割、否定的な意見2割であった。全員が実践し、自信につなげられる学習指導が必要でもある。

④検定合格数50件以上

- 造園技能士3級学科のみ合格2名、フラワー装飾士3級2名、2級学科のみ1名、日本語ワープロ検
定4級4名、3級5名、漢字検定3級1名、準2級1名、2級1名、日本農業技術検定3級6名
・学科には合格したが、実技不合格などの結果から、例年の合格率にならなかった。一方で漢字検
定の上位級合格の実績を残すことができた。
- ⑤長期休業期間に講習・補習を計画的に行う。
→国語科、数学科、英語科、農業科で夏季休業日中に実施。
・検定合格に向けた補習や進路活動につなげる講習を実施した。
- (3) 専門教育（進路に生かせる技能、社会のニーズに応える人材育成）
- ①検定
→「日本農業技術検定（3級）」合格率86%、6名合格。
- ②資格
→「造園技能士3級」学科のみ合格2名、「フラワー装飾士」3級2名、2級学科のみ1名合格
- ③第3者機関であるJGAP認証を契機として安全・安心な農業を実現する。
→JGAP継続審査に合格
- ④栽培した生産品等の販売実習の場面において実践的な経営学習
→販売40回、フリーマーケット1回、園芸展での販売2日実施
- ⑤アグリマイスター顕彰制度認定者2名以上。
→令和7年度ゼロ。残念ながら資格の合格率と比例してしまい、結果を残すことができなかった。
- (4) 生活指導（規範意識を高める）
- ①「時間管理」
→遅刻率1学期3.8%、2学期2.5%、3学期4%、年間3.4%（前年度13%）
- ②「問題行動ゼロ」
→問題行動0件（前年度0件）
- (5) キャリア教育・進路指導（社会の変化に対応できる力を高める）
- ①「アルバイトの推奨」（社会参加のトレーニングとして 経験者率80%以上）
→今年度アルバイト経験率は64%（前年度65%）
- ②「就職希望」に対応する。（進路決定率100%、第1志望実現率70%以上）
→卒業生進路決定率100%、第一志望実現率100%を前年度同様に達成
- (6) 特別活動
- ①部活動加入率48%（前年度50%）
- (7) 健康教育
がん教育や給食指導等を通して生涯に渡る健康づくりの基礎を身に付けさせる。
→保健講話、健康教室、薬物乱用教室、普通救命講習、セーフティ教室を計画通り実施。給食の喫食率
は80%であった。（前年度64%）
- (8) 地域・社会貢献
- ①玉川警察署、玉川消防署への花壇植栽活動4回
②東深沢・等々力コミュニティ主催フリーマーケット参加1回
③古布回収ボランティア2回
④「人間と社会」の時間における生産品配布活動2回
- (9) 教育財産・予算（質の高い教育環境を整える）
- ①校内の名所「教育財産」を整備して価値を高める。定時制と全日制で協力して維持・発展に努める。
→入学式・卒業式の装飾を協働して実施した。
- ②施設・設備の改修計画に基づき、教育環境の改善と充実を図る。
→生徒用机、椅子の既存品との交換、会議室の環境整備等、経営企画室と教職員間の連携・調整により
実施

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

「東京都立園芸高等学校は持続可能な開発目標（SDGs）を行動基盤として社会貢献・地域貢献できる人材の育成を目指しています。」